

学校関係者評価委員会報告

・日時： 2026年6月16日（火） 10:00～12:00

場所：青山ファッションカレッジ校舎

出席：学校関係者評価委員

保護者代表：飯嶋 梨絵（ファッションビジネス科1年 飯嶋沙羽保護者）

高等学校代表：鈴木 隆英（成田高等学校 校長）

卒業生代表：橋本 友美（スタイリスト・コーディネーター科 卒業）

業界代表：安達 稔（株式会社MAクリエイティブネットワーク 代表）

学校法人原学園 専門学校青山ファッションカレッジ 職員

校長 中村 道雄・

事務局長 岩村 勇

事務局次長 菊地 慶

教務主任 面田 憲郎

教務部 三浦 達矢

事務局 加藤 早紀

以下議事録

1. 挨拶 中村校長より開催趣旨の説明。委員の皆様に忌憚のない意見をいただきたい。
 2. 学校関係者評価委員会の位置づけ 岩村より説明 学校のステークホルダーの皆様から、自己点検に対するご意見や評価を頂きたい
 3. 学校関係者評価委員ご紹介、学園職員紹介：上記名簿参照
 4. 2025年度自己点検・自己評価報告
- ・青山ファッションカレッジの母体である滋慶学園グループの紹介。
 - ・【基準1】教育理念・目的・目標と職業教育のマネジメント

アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーの説明。

課題は、学科ごとに目指すべき人物像の具体的設定が明文化できていないこと。

・【基準2】教育課程、教育の実施、学修成果

職業実践専門課程についての説明。昨年度クリエイター科とビジネス科が対象として認定された。文部科学省からも、外部企業と連携してカリキュラムを組み立てることが推奨されている。

・【基準3】学生の受け入れ、学生支援

カウンセラーによる学生相談室の利用スタート。必要な学生へ職員が繋いでいる。

産学連携として、3年目となる **tutuanna** コラボ商品開発の取り組みを推進している。その他、オリエンタルランド、**FILA**。アイドルライブでのスタイリストアシスタント等。

ミュージックアワードジャパンで **Mrs. GREEN APPLE** のライブに入った実績の紹介。

・各委員からのコメント

鈴木様：学校の方針について、年2回練り直しを行っているのは、大変努力されていると感じる。産学連携は学生の刺激になっていると思う。高校では、頑張りは「点数」になるということなので、考えたことが実際に形になるというのは羨ましい。

安達様：学校の方針を策定する作業は、会社でいえばロードマップを作成することにあたる。外部環境が大きく変わる中、個人のオリジナリティを伸ばす視点が重要。

橋本様：企業連携は自身の在学生中は無かったので羨ましい。学校での学び以上に、現場に出る量が重要。現場での経験値が買われるので、今後も産学連携を望む。

飯嶋様：学生には、興味があることだけではなく「どうしたら売れるか?」「どんなターゲットなら響くか?」と外に意識を向ける視点を持てるようになってほしい。

面田：産学連携授業では、学生が大人と話す機会を増やすことを意識している。実際のビジネス現場での打合せをイメージして場数を踏んでももらいたいと考えている。

菊地：FB科は、1年次は自分たちが作りたいもの・好きなものを出発点とする考え方、2年次になると企業課題をもらって求められることに応えることにシフトしていく。

三浦：学生の「やりたい」を大切に育む視点を重視している。アイドル衣装制作したいという思いで入学してくる学生が増えているので、実際にチャレンジしてもらおう。

岩村：学校で学ぶ良さは、元々やりたかったことだけではなく、偶然の出会いで視野を広げられること。動機付けが重要となり、工夫が必要。

・【基準4】教員・教育実施組織

JESCによる研修を活用し教員の資質向上を図っている。

少人数であることが、これまで、人間関係の問題が起きたときに逃げ場をなくしてしまっていた。安心安全の場作りのために、導入教育を今年から実施している。

- ・【基準 5】教育環境

校内リニューアル工事を実施。照明、WIFI の整備も含む。

滋慶グループの DUCE によるサポートで避難訓練を実施。

- ・【基準 6】教育活動の基盤と情報の公表

HP を活用し各種情報を公開している。

- ・重点戦略

立地を生かして高校生に届ける。産学連携教育がブランディングの柱。業界と直結した経験を、少人数だからこそ全員が得られる点を訴求する。

業界連携、卒業生連携、新学科・新規事業、地域連携がキーワード。

5. 各委員より ・各委員からのご意見（①専門学校教育に求めるもの、②現場の取り組みについての質問・意見）

■鈴木様：学生の海外への興味はあるか？本物を見に行くように生徒には伝えている。高校では、英語圏のカナダ・イギリスなど年 2 回、年間 60 名が海外研修参加（満席になる）

→菊地：海外研修は企画するも参加人数が集まらず催行できていないが、先日はイタリアから業界で活躍する方に学校に来ていただいた。

■安達様：日本に閉じずにインターナショナルな視点を身に着けてほしい。「世界と一緒に尖っていこう」というメッセージを伝えたい。自分の輪の中だけでなくもっと広く見てほしい。

→菊地：留学生の受け入れも増えている。学生が日本以外の文化を知る機会になっている。

■橋本様：就職サポートはどのようにしているか

→菊地：今年から担任の授業を増やし、キャリアデザイン授業を導入。1 年生は職種を知ること、現場で仕事を知ることを重視。

→面田：販売職だけが道ではないと伝えている。デザイナー、MD、バイヤーなど多様な職種を知ってもらう。転職も含めたキャリアデザインを支援。夏休み明けから個別にヒアリングしてサポート。

→橋本様：ファッション業界ならではの現実・理想のギャップの大きさがある。学校でも伝えてほしいのは、色んな職種があり、業界には色んな関わり方があること。金銭面のリアルなど。業界から離れてしまった同級生は多いため。

■飯嶋様：仕事のリアルを学生に知ってもらいたいので、卒業生を学校に招いてもらいたい。

→橋本様：卒業生として招いていただく機会には、やりがいだけでなくリアルを伝えるようにしている。**SNS** で相談を受け付けると伝ええると、連絡してきてくれる子もいる。

→菊地：ネガティブな情報ばかりを事前にインプットするのではなく、まず自分が体験して感じてもらうことも大事にしてほしい。

■飯嶋様：FB 卒業後に FT 科に入るメリットを知りたい。検定の勉強は自分でやるべきなのかも知りたい。

→菊地：EC サイト制作ができて、かつファッションの知識がある人材は多くない。企業からのニーズが高い職種。新卒では行きづらい企業に就職できるケースも。検定は授業内で案内する。

最後に：中村校長

様々のご意見を頂戴し感謝する。いただいた意見を基に、学校運営をさらに改善していきたい。